

子どもアドボカシーとは (意味・必要性・担い手)

堀 正嗣

1 子どもアドボカシーの意味

アドボカシーの辞書的意味

Advocacy = 弁護、支持、擁護、唱道

the advocacy of peace : 平和の唱道.

an advocacy of birth control : 産児制限論

advocacy of war : 戦争を主張すること

Advocate(動詞) = 弁護する、支持する、擁護する、唱道する

Advocate(名詞) = 弁護者、支持者、擁護者、唱道者

アドボカシー＝声を上げること

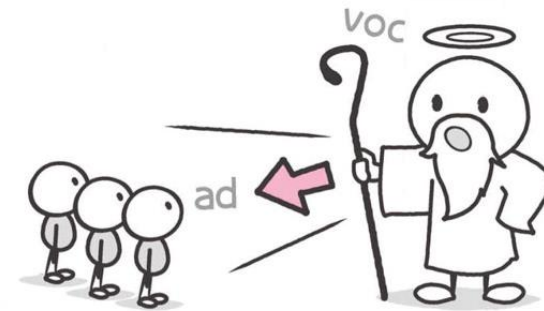
英語の“advocacy”とは、ラテン語の“voco”に由来する言葉である。“voco”とは、英語で“to call”のことであり、「声を上げる」という意味である
西尾(2000)「社会福祉実践とアドボカシー—利用者の権利擁護のために」

アドボカシー
権利を侵害されている当事者のために
声を上げること。



1-2 voc, vok, vouch = 声、呼ぶ

advocate



ad (～の方へ) + voc (声) + ate (動詞に)

→ ～を声援する

動 [ædvəkəɪt] 擁護する、主張する

名 [ædvəkət] 擁護者、主張者

清水健二ほか『英単語の語源図鑑』

アドボカシーの起源＝パラクレートス(‘ο Παρακλητος)

古典ギリシャ語のパラクレートスが今日のソーシャルワークにおけるアドボカシーの語源。

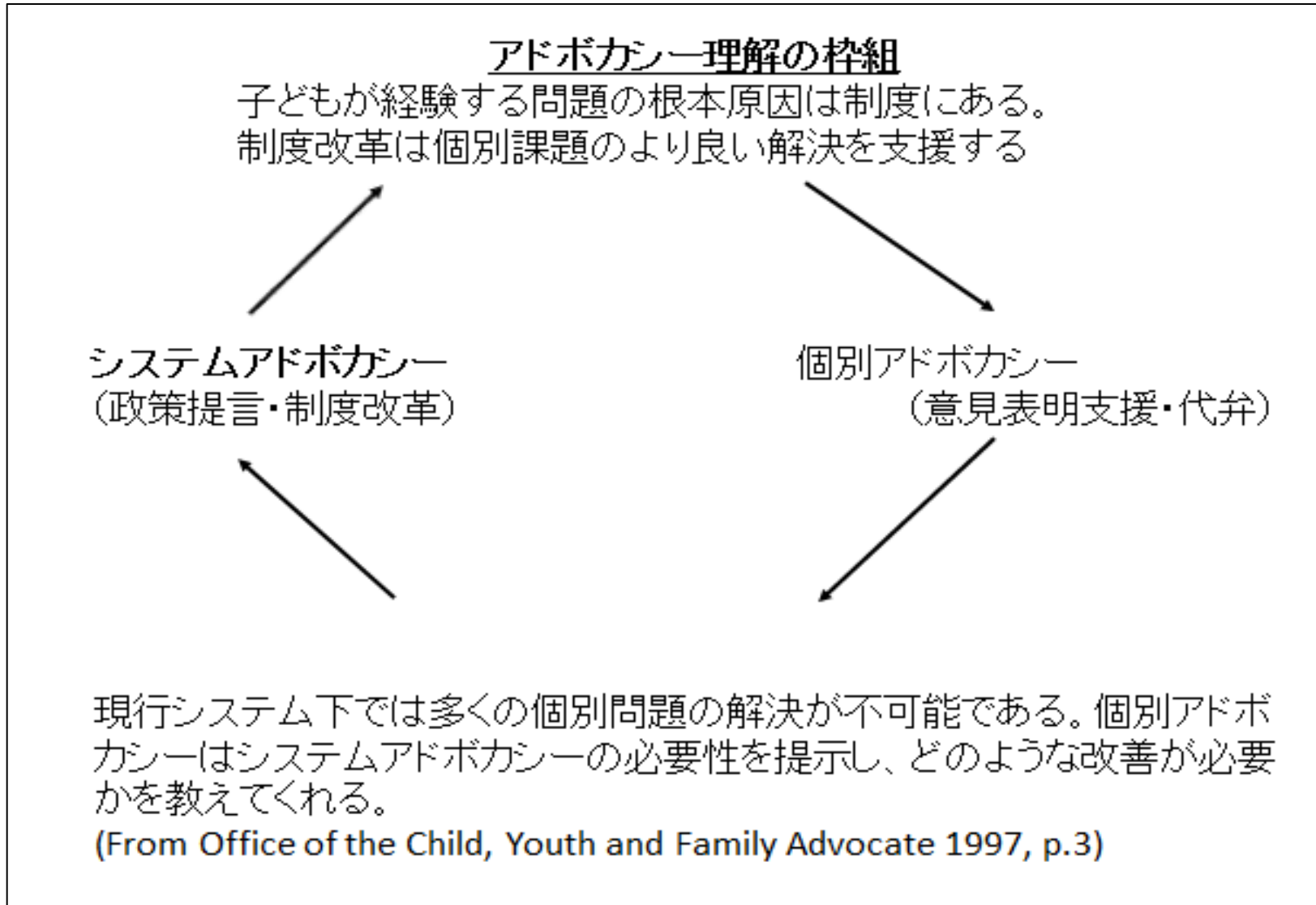
①助ける人（慰める人）／②弁護する（代弁する）人

「困難にある人、援助の必要な人を傍らで助けてもらうために呼ばれた者、弁護する者、とりなす者」

「原罪を持ち、絶対者の前に無力な人間の側にたって、その人間に代わって、神へむかうイエス（ある場合聖霊）の役割」

(木原活信 (2001) 「ソーシャルワークにおけるアドボカシー概念の起源と原型——パラクレートスの思想をめぐって」『キリスト教社会福祉学研究』(34),33-40.)

個別アドボカシーとシステムアドボカシー



子どもアドボカシー＝マイクになること

アドボカシーは独自のサービスであり、他のどんな子どもとおとなの関係とも異なっている。

アドボカイトは**子どもの声**である。

(Department of health=2009)

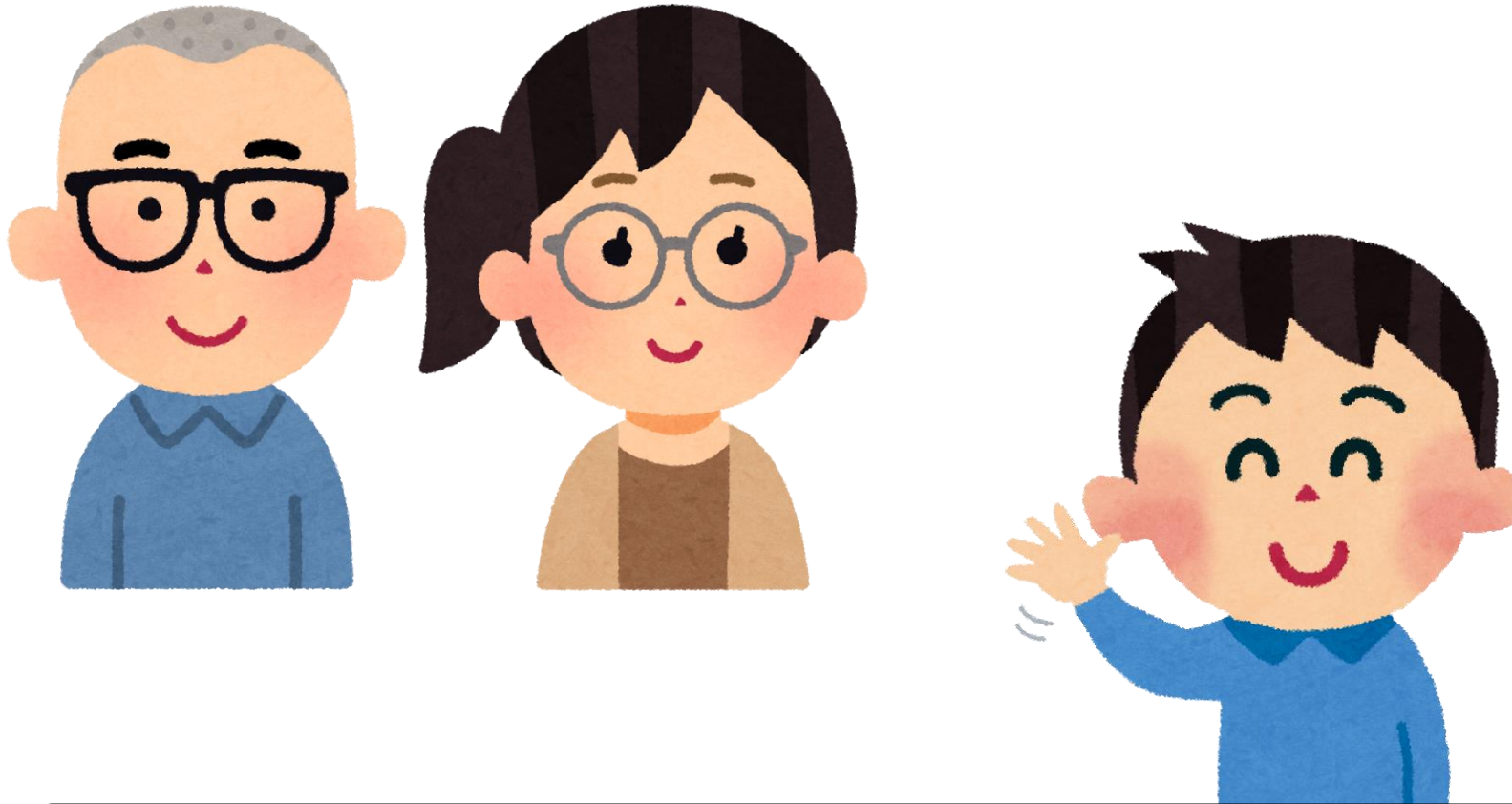
問題を見つけ、子どもの意見が考慮され解決のために子どもたちと一緒に行動を起こせるようになるために、個人または集団的な子どもの声を**持ち上げる**ためにアドボカシーを行う。

(カナダ・オンタリオ州アドボカシー事務所)



基本理解：人は思いを持ち、伝えられる

1 「ぼく、ひとりでいえるよ。」



吉池毅志作成（栄留・鳥海・堀・吉池（2020）『子どもアドボカシーってなに？』解放出版社、所収）

基本理解：人は時に味方を必要とする

2 「でも、ついてきてほしい
ときもあるんだ。」

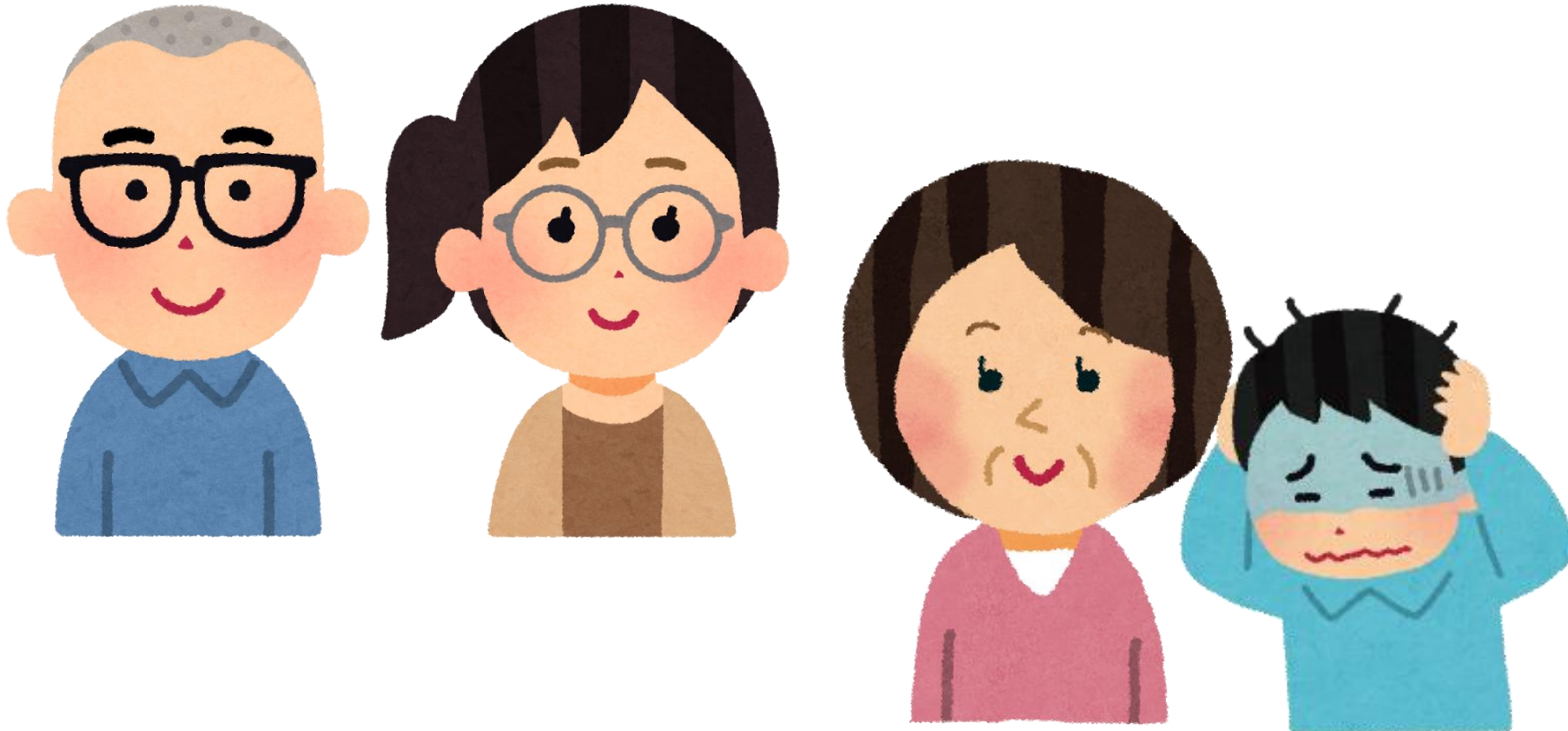


吉池毅志作成（栄留・鳥海・堀・吉池（2020）『子どもアドボカシーってなに？』解放出版社、所収）

基本理解：人は時に代弁を必要とする

3

「かわりにいってほしい
ときもあるよ。」



吉池毅志作成（栄留・鳥海・堀・吉池（2020）『子どもアドボカシーってなに？』解放出版社、所収）

グループワーク 1

- ① 4～5人のグループに分かれます。
- ② 本講座を受講した動機を含め、自己紹介をお願いします。その後アドボカシーを受けた経験または行った経験をシェアしてください。（一人3分・計15分）
- ③ 何人かの人に発表していただきます。

2 子どもアドボカシーの必要性

自分の人生の外側にいること

(英：子どもアドボカシーサービス提供のための全国基準より)

初めて施設に来た時のことを振り返ると、何もかも失ったような気持ち
初め施設に来ていた時、施設の子供たちともしていきながら権利はあった。施設
は私を守ってくれた。私は聞いてもらわなければならなかった。

私は5歳から6歳の子どもたちの集団に入った。そのときから、いろいろな会
合や公の場で連れて行かれ、そして子どもたちの家に連れ戻されるあやつり
人形のように感じた。

幼い子どもなのに、私は自分で考えたり感じたりすることもできないと思
われていた。時間が経つにつれて、私も幼い自分たちのケアプランに
関係する部分で、私自身も関係する部分で、私が決定に関与すること
は許されていなかった。

自分の人生の外側にいるので、どんな風に世話をしてもらいたいか言うこ
ともできない。私はただ諦めてそれを受け入れるしかない。私が今どうあ
りたいかを誰も知らない。

インケアの子どもたちの声、アドボカシー利用者へレン

聴かれなかった子どもの声

船戸結愛さん(2018年3月死亡)



「もうパパとママにいわれなくても
しっかりじぶんから きょうよりか
あしたはもっともっと できるよう
にするから
もうおねがい ゆるして ゆるして
ください
おねがいします」



聴かれなかった子どもの声

栗原心愛さん(2019年2月死亡)

「お父さんにぼう力を受けています」

「夜中に起こされたり起きているときにけられたりたたかれたりされています。先生、どうにかできませんか」

アドボカシーを必要とする子どもたち

- 児童養護施設で生活している子ども・若者と訪問アドボケイト
- 刑事事件を起こした子どもの気持ちを聴き、裁判所に子どもの気持ち伝わるよう働こう。
- 児童福祉サービスの利用にかかわる障害児の思いを聴こう
- 親の離婚に直面する子どもの気持ちを聴こう
- いじめに加担したと決めつけられた中学生の思いを会議の場面で代弁する
- いじめられて不登校になった子どもの思いを聴こう
- 利用している産婦人科に満足できない若年妊婦の思いを聴こう（堀正嗣・子ども情報研究センター編著（2013）『子どもアドボカシー実践講座』解放出版社より）

アドボカシーとは

人々の懸念やニーズを支援するために語る行為である。人々が自分で語る声をもっている場合には、アドボカシーとは、彼らの声が皆に聞かれるようにすることである。また、彼らが自分でしっかり語ることが難しい場合には、アドボカシーとは、援助を提供することである。彼らが自ら語る言葉をもたない場合には、アドボカシーとは、彼らのために語ることである。

(Herbert 1989)

子ども差別(アダルティズム)への異議申立としてのアドボカシー

子ども達は社会によって組織的に虐待され、軽蔑されている。そうした抑圧を直接的に行うのはおとなである。子どもへの抑圧の土台は軽蔑である。抑圧の具体的な現れは、組織的な無力化、声や敬意の否定、身体的虐待、情報を与えないこと、誤った情報を与えること、力の否定、経済的依存状態、権利の欠如、高い期待の欠如、以上のもののあらゆる組み合わせである。

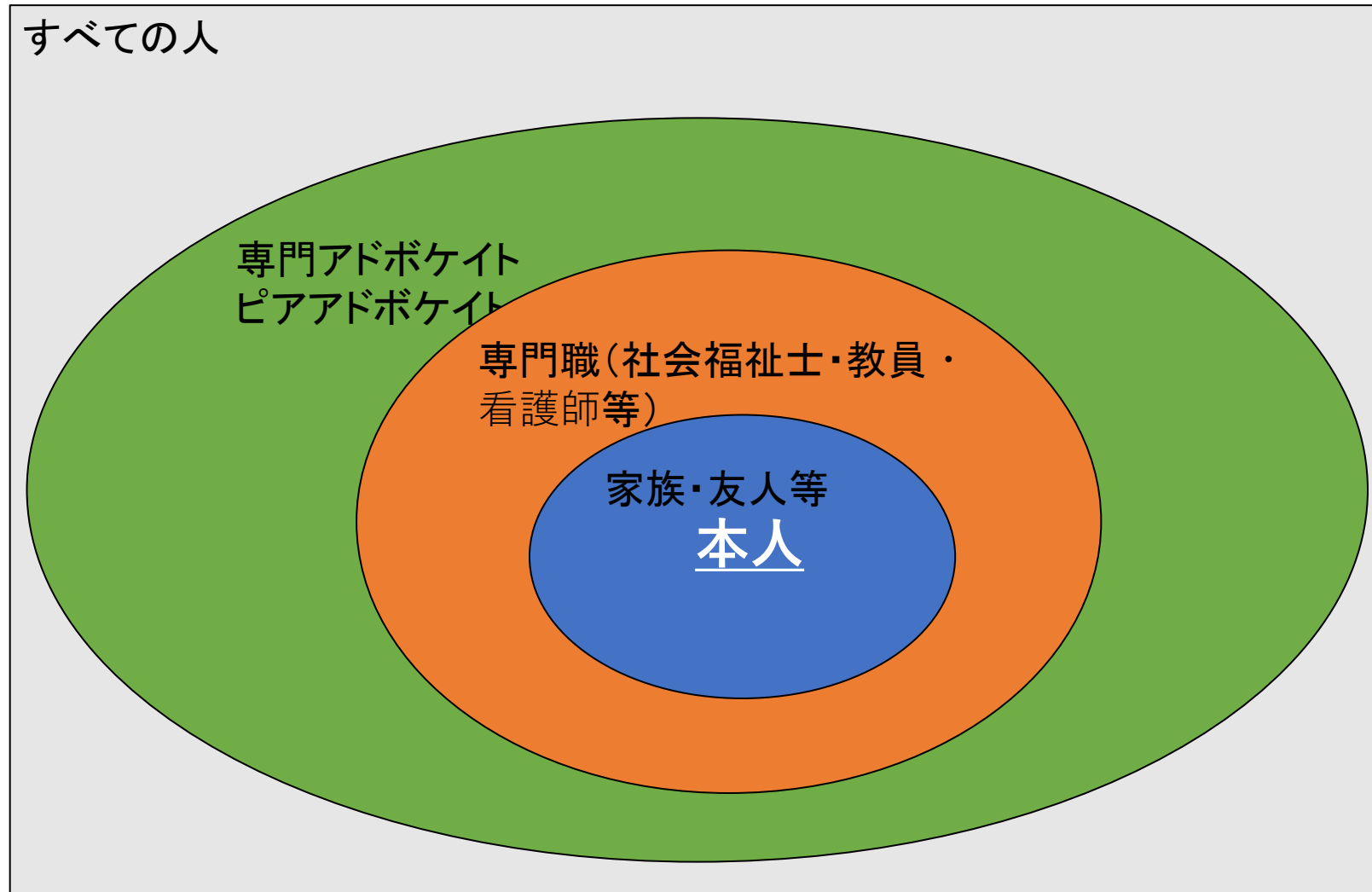
(Sazama ら 2001:3)

グループワーク 2

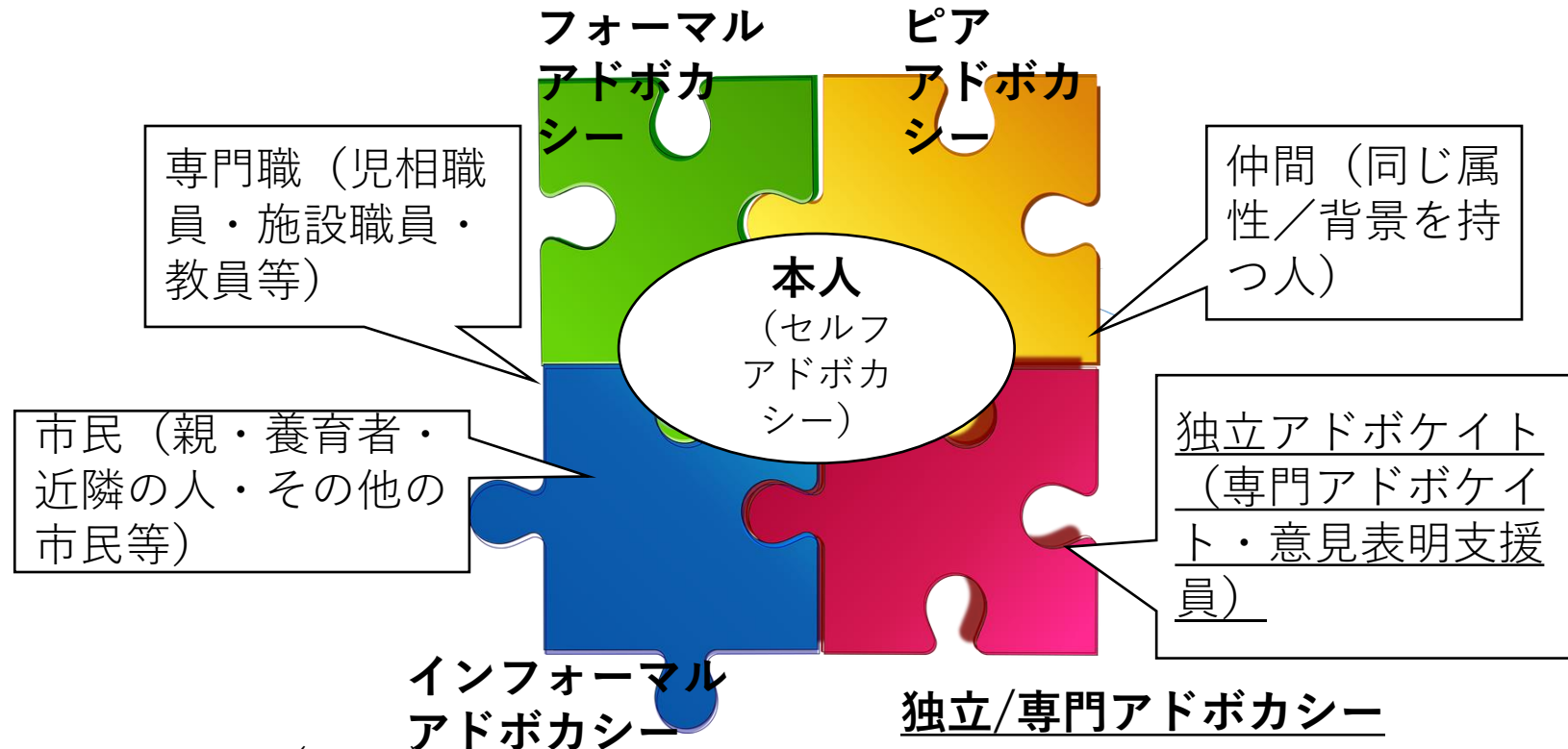
- ① 4～5人のグループに分かれます。
- ② 特にアドボカシーが必要なのはどのような子どもたちでしょうか。その理由を含めて話しあってください。（15分）
- ③ いくつかのグループに発表していただきます。

3 アドボカシーの担い手

アドボカシーの担い手



アドボカシージグソー



WAG(2009) *A Guide to the Model for Delivering Advocacy Services for Children and Young People*, WAG.を改変 (栄留里美・堀正嗣作成)

アドボカシー・ジグソー

アドボカシー提供には様々な方法があり、沢山の人たちがアドボケイトとして支援することができる。しかしながら、インフォーマルアドボカシー、フォーマルアドボカシー、独立／専門アドボカシー、ピアアドボカシーの間には役割の違いがあり、相互に関連しあってアドボカシーが進んでいくのである。

フォーマル（制度的）アドボカシー：あなたは、子どものために働く専門職に対して、権利や資格があるサービスにアクセスするのを手伝って欲しいと思う時があるでしょう。これらの人々は、通常、子どもを助け子どもの利益の実現に向けてアドボカシーする目的で雇用されている人々です。たとえばユースワーカー、教師、養護教諭、プレイワーカー、児童指導員等、様々な人たちがこうした専門職です。情報を得て必要なサービスを見つけるのを彼らは手伝ってくれます。またあなたの決断を、必要な援助が得られる機関を探すことを、そしてあなたに影響する決定の際に確実に意見が言えるように手助けしてくれます。

アドボカシー・ジグソー

インフォーマル（非制度的）アドボカシー： たいていの人々は、自分に権利や資格があるサービスにアクセスする支援を、親、養育者、家族、友達、近所の人、友達の両親などから得ています。彼らはあなたが自分の考えを言葉にするのを手伝ってくれます。気持ちを表現し、決断するのを手伝ってくれます。彼らは無償のアドボケイトです。

ピアアドボカシー：あなたは、何かをやめさせたり、始めたり、変えたりするために他の子どもに助けて欲しいと思う時があるでしょう。自信に満ち溢れた子ども達がいる、彼らは喜んであなたの意見を他の人に伝えてくれます。そうした子ども達は、ピアアドボケイトとして活動するための訓練を受けているか、ピアアドボカシーの団体やプロジェクトに所属していることもあります。

アドボカシー・グッソー

独立／専門アドボカシー：あなたは、意見や気持ちを聴いてもらえないと感じた時、自分に権利や資格があるサービスにアクセスできなかった時、またはできなくさせられた時、独立／専門アドボケイトに助けて欲しいと思う時があるでしょう。これらの人々は、あなたに影響を及ぼすすべての決定において、あなたの意見が聴いてもらえるように手助けしてくれます。そしてそのための資格を持ち、訓練を受け、お金をもらって働いている人がほとんどです。彼らは、あなたが嫌だと思っていることや、また聴いてもらえていないと感じている問題に取り組みます。彼らはあなたと一緒に会議に参加し、何が行われているのかを理解できるようにあなたに伝えまます。またあなたの意見が会議の中で考慮されるようにします。「こうした方がいいよ」と助言するのではなく、あなたが自分の意見を言えるように手助けするのです。アドボケイトの考えを押しつけることはありません。

独立アドボカシーの独自性

1 市民性（地域性）

市民感覚を大切にして、可能な限り平等に取り組む。地域の中で活動し、様々な市民を巻き込んでいく。

2 独立性

システムの「中に」しかしシステム「の」にはならない。児童福祉制度の中で働いていても、アドボカシーに特有の価値基準（子ども主導）を維持し、その目的を薄める役割にはつかない。

3 専門性

子どもを権利行使主体として認識する子どもの権利条約を基盤として、オルタナティブな専門性を拠り所とする。

権利擁護とアドボカシー

(1) 子どもの人権が現に侵害されているときに、子ども自身が緊急に人権救済を申し立てるシステム（子どもの「かけこみ寺」）－ [子どもの権利**救済機能**] ⇒ 【児童相談所・児童福祉施設等】

(2) 子ども自身がその権利を主張もしくは行使できないときに子どもの権利を子どもの立場に立って代弁するシステム（「代理人もしくは適当な団体」の設置）－ [子どもの権利**代弁機能**] ⇒ 【独立子どもアドボカシー等】

(3) 何が「子どもの最善の利益」かについての判断が一致しない場合に、それを**第三者的立場**から調整するシステム（[子どもの権利**調整機能**]）⇒ 【子どもオンブズパーソン・児童福祉審議会・裁判所等】

アドボカシーの普遍的本質

人間の歴史は次のことを示している。不正が存在するときには、自らはそれによって脅かされていないにもかかわらず、不正に抗して立ち上がり、発言し、行動しようとする準備している人達が存在するのである。彼らは犠牲者の側に立って、または犠牲者の利益のためにそうするのである。これがアドボカシーの普遍的な本質である。

(Dalrymple, J. and Hough, J. eds. (1995) *Having a Voice: An exploration of Children's Rights and Advocacy*. Venture Press.)